

執行方針の取り組み状況を調査！ 常任委員会レポート

所管する関係施設・事業等の課題や問題点を把握するため、町内視察と令和2年度の町執行方針について、それぞれの委員会で所管する施策に対して取り組み状況の確認を行いました。

総務教育

【調査概要】
R 2.11.9 町内視察・執行方針確認

〈視察施設等〉
・塩釜町内会館新築事業

【所管関係施設・事業等の視察】

1. 塩釜町内会館新築事業

9月1日完成の塩釜町内会館については、有効活用を期待する。
災害発生時に避難施設としての役割を担う各町内会館に対する、最低限の備蓄品配置等、円滑な避難所運営の方策を検討すべきと思慮する。

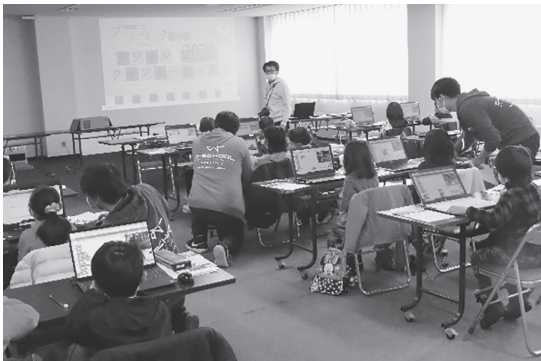


新築の塩釜町内会館（集会室）

【執行方針の取り組み状況の確認】

1. 各大学との事業展開について

北海道大学・公立はこだて未来大学・東京農業大学との事業については、社会情勢の変化等により、所期の目的に沿った事業展開が大きく変化・後退していることから、今後の包括連携の在り方・事業展開等について、鋭意検討する時期に来ていると思慮する。
今年度で事業終了の小学生プログラミング講座については、GIGAスクール事業展開の視点からも、次年度以降も継続されるよう強く望む。



公立はこだて未来大学の学生による小学生プログラミング講座（福祉センター）

2. チャレンジスピリット事業について

当事業は、新たな起業家に対する施設整備の支援が事業対象となっているが、起業家が自立していく重要な手段となる広告宣伝等のソフト事業についても対象となるよう制度を改良することを強く望む。

3. 地元企業雇用等促進条例について

当制度の目的は、福島商業高校新卒者の地元雇用の促進と定住人口確保であり、さらに定住・少子化対策を検討する場合は、助成期間に引き続き、結婚・子育て支援まで途切れることのない一連の制度設計を検討されたい。
外国人技能実習生については、新型コロナウイルス感染症の影響による期間延長や、法改正による同一事業所再採用の事例等があるので、実態に即した条例改正を検討されたい。

4. 「第2青函トンネル構想を実現する会」の活動状況について

第2青函トンネル構想は、「新幹線本来の高速走行の実現、本州との物流強化による北海道経済の底上げ等」を目的としているが、北海道や国関係機関は、未だ積極的に取り組む状況にない。
11月2日の北海道経済連合会による「第2青函トンネルシンポジウム」では一歩前進した感じがするが、構想実現には、北海道全体で取り組む組織体制が必須であり、さらに時間を要するものと思慮される。
町構想を実現する会としては、西部4町はじめ渡島・檜山各町、外ヶ浜町（青森県）等との連携・連動が重要であり、地元選出国會議員・北海道議會議員の活動参加を促し、国・北海道による第2青函トンネル実現に向けた積極的な活動の強化を望む。

常任委員会レポート 所管関係施設・事業等の視察と

経済福祉

【調査概要】

R 2.11.16

町内視察・執行方針確認

〈視察施設等〉

- ・福島漁港船揚場屋根施設整備事業
- ・吉岡漁港岸壁整備事業
- ・町道整備事業（館古団地1号線・日向団地6号線・吉岡宮の下線）
- ・美山浄水場前処理施設整備事業

【所管関係施設・事業等の視察】

1. 町道日向団地6号線整備事業

今年度事業分は良好と認めるが、残事業については、令和4年度事業実施に向け、令和3年度における測量調査や国有地払下げ協議等、鋭意作業を進められたい。

2. 美山浄水場前処理施設整備事業

工期内の安全な工事の推進と、本格稼働前のシステム確認・各種調整・マニュアルの手順確認等、遺漏なきよう進められたい。



工事中の美山浄水場前処理施設

【執行方針の取り組み状況の確認】

1. マグロ・イカ漁業者の昆布養殖の状況について

早取り昆布出荷数量は、計画数量500 tに対し、全体で375 t、その内、マグロ漁業者の出荷数量は73 tで、計画数量150 tに対し49%の出荷となった。

今年の出荷数量は、天候等の影響で昨年に引き続き計画数量に届かなかったとのことであるが、昨年度所管事務調査で言及しているとおり、漁業協同組合が主体となり、昆布養殖業者・マグロ漁業者専用出荷の水揚げ時期等の調整を積極的に進めるべきと思慮する。

2. 養殖アワビの販売状況等について

令和2年10月末現在の養殖アワビ販売は、活アワビ・冷凍アワビ併せて6,544個、163万862円であり、販路拡大につながるPR活動を積極的に続けており、購入業者から個数販売だけではなく、重量販売（キロ売り）の検討要請があったとのことである。

今年度の販売状況等に基づき、議会が提言してきている活アワビの販売サイズや単価、業者要望のキロ売り等、市場に連動するブランド化の検討を積極的に進めるべきと思慮する。

3. 社会福祉協議会の財政状況について

協議会への町支援は、今年度から概ね5年間、各年800万円としており、協議会では、「組織体制の見直し、さらなる経費削減、事業の見直し」を骨子とした経営健全化計画を令和元年度に策定し、町の支援期間内での経営健全化達成を目指している。

町民からの会費増額、新たな事業取り込み等経営安定化につながる積極的な事業展開を検討しているが、自主財源確保・更なる経費節減は厳しく、町としても協議会の取り組み状況を充分把握し、町委託事業の追加等、経営健全化に向けた可能性について検討すべきと思慮する。

4. 今後の観光の在り方について

当町の観光は、町事業を受託している福島町まちづくり工房の岩部クルーズ事業の積極的な町内外PR活動により、大きくクローズアップされているが、組織体制は脆弱である。

設立当初から大きく町が関与している工房組織への支援強化、町が事務局となっている観光協会の組織体制の構築について、町が関係機関を誘導し、積極的に取り組むべきであると思慮する。

新型コロナウイルス感染症対策 (第3弾:「国の第2次補正」)

【調査概要】 調査事件10 R 2.11.16開催
町から「国の第2次補正」対応の地方創生臨時交付金事業第3弾の交付金対象事業(案)が提出されたので、調査をしました。

【論点と意見】 予算総額 8,200千円 (交付金充当額 7,200千円)

1. 交付金対象事業(第3弾)について

- ・漁業生産基盤安定化事業
福島吉岡漁業協同組合に対する経営支援金
5,000千円
- ・地域経済緊急支援事業
福島町商工会の消費喚起・促進を目的とした商店街活性化イベントに対する支援金
3,200千円

2. 総括的意見について

新型コロナウイルス感染症対策に係る産業分野への対策は、理解した。ただし、地域経済緊急支援事業については、多数の人が集まり密になることが想定されることから、マスク着用・消毒はもちろんのことソーシャルディスタンスや換気に最大限配慮し実施されるよう留意されたい。

岩部クルーズ運航事業について

【調査概要】 調査事件11 R 2.12.18開催
町から今年度の事業実績と、令和3年度の事業継続の方向性が示されたので、関係資料に基づき調査をしました。

【論点と意見】 観光と連動・連携した取り組みによる波及的効果の追及!

1. 観光施策としての岩部クルーズ事業について

現在の当町観光施策は、岩部クルーズ事業を前面に押し出しているが、本来的には、従来から当町の観光を担ってきた横綱記念館・トンネル記念館を施設型観光、また、岩部クルーズを体験型観光と改めて位置付けし直し、町内全体が観光産業の波及的恩恵を享受できる施策展開をすべきと思慮する。

(1) まちづくり工房の自主的事業展開

今後の自主的組織経営のためには、役員自体が設立趣旨をしっかりと自覚し、組織体制(役員の役割・事務局体制確立等)や経営管理(財政の現状分析・見通し)について積極的に検討を加え認識を共有する必要がある、その上で町・観光協会等と連携強化を図るべきと思慮する。

(2) 地元飲食店による食の提供

今年の事業実施で、多くのクルーズ利用者が町内での飲食を望んでいること、また、帰りに町内商店で地場産品を購入しているなど岩部クルーズとの連動連携の必要性と可能性が分かったことから、町内飲食店・商店の取り組みに期待するとともに、町の支援・誘導、参加意欲の醸成を強く望む。



(通称)オバケ岩にビックリ(岩部クルーズ)

2. 総括意見について

クルージング運航が天候等に左右され、現状の経営状況での自立は、非常に厳しいと分析されることから、一般財源による令和3年度岩部クルーズ運航事業については一定の理解をするが、運航回数増の可能性を探索し、従来同様、有利な財源確保の可能性について検討願いたい。